

TSH・T₄ 両者測定による クレチン症スクリーニング結果

国立武蔵療養所神経センター 成瀬 浩
百瀬 妙
東邦大学医学部第一内科 入江 実
坂井 由美

我々は、クレチン症スクリーニングの方法の検討のため、TSHとT₄の両者測定を続けており、その結果を報告する。

方法は、TSHは栄研ICL社及びCORNING社のキットを使用し、T₄はMicromedic社のキットを用いてconcept4を用いている。

今年度は、57,057件の新生児検体を測定した。カットオフポイント等は昨年度と同様である。検査結果を表1に示した。患者3名のうち、1例はT₄が正常、また、TSH、T₄両者異常の2例中1例も初回T₄は正常であり、T₄測定のみによるスクリーニングでは見逃がす例であった。また、クレチン症を疑われて経過観察中の2例もT₄は正常であり、T₄を指標とすると5例中4例を見逃し得ることが考えられる。T₄のみ異常の45例のうち、肝炎が1例、下垂体異常を疑われ入院したのが1例あったが、後者はクレチン症ではなかったとの事である。

次に、スクリーニングを開始した時からの総計を表2に示した。170,991件のスクリーニングを行ない、17例がクレチン症、2例が一過性高TSH血症、77例がTBG欠損及び減少症であった。また、他に3例が、クレチン症を疑われ経過観察中である。患者17例のうち、6例はT₄正常で、T₄測定によるスクリーニングでは見逃がす例である。

T₄低値より要精検となった例の多くはTBG欠損及び減少症である事より、できるならば、T₄低値の例についてはTBGの測定を行なう事が望ましい。

現在まで、17万件余の新生児検体をスクリーニングしたが、続発性クレチン症は発見されていない。今後、T₄測定の意義について、十分検討していかなければならないと思われる。

表1

No. of measurement

'81 Feb - '82 Jan

57057

No. of patients

3 (1/19000)

TSH↑ T ₄ ↓ 2	2	Hypothyroidism
TSH↑ T ₄ → 4	1	Hypothyroidism
	2	Under examination
	1	Normal
TSH→T ₄ ↓ 45	25	TBG deficiency (1/2300)
	8	Prematurity
	1	Hepatitis
	1	Pituitary dysfunction, susp.
	1	Normal
	9	Undefined

表2

No. of measurement

'78 Apr - '82 Jan

170991

No. of patients

17 (1/10000)

TSH↑ T ₄ ↓ 12	12	Hypothyroidism
	2	Athyroid
	2	Goitrous
	2	Ectopic
	6	
TSH↑ T ₄ → 7	5	Hypothyroidism
	3	Ectopic
	2	
	2	Transient
TSH→T ₄ ↓ 103	77	TBG deficiency
	13	Prematurity
	1	Hepatitis
	1	Pituitary dysfunction, susp.
	11	



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



我々は、クレチン症スクリーニングの方法の検討のため、TSHとT4の両者測定を続けており、その結果を報告する。方法は、TSHは栄研ICL社及びCORNG社のキットを使用し、T4はMicromedic社のキットを用いてconcept4を用いている。